

陳情第167号	受理年月日	令和5年9月21日
付託委員会	教育文化委員会	
件名	北九州市立埋蔵文化財センターの早急な展示内容の充実と設備改善を求める陳情について	
要旨	<p>北九州市立埋蔵文化財センターを八幡市民会館に移転すると市が表明してから、はや5年が過ぎた。移転事業をこのまま進めても、完了にはまだ相当日数がかかる。</p> <p>埋蔵文化財センターと市内4つの収蔵庫には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡約900か所のうち約700地点の約94,600箱もの出土品が保管されており、そのうち、城野遺跡石棺をはじめ約1,300点がセンターで展示されている。北九州市立埋蔵文化財センター基本計画には、「埋蔵文化財は、地域の歴史を知り、郷土愛を育むことができる資料」であり、「収蔵庫に保管している出土品の中にも、多くの貴重な文化財があります。」との記述がある。</p> <p>ところが、築35年を経過した埋蔵文化財センターは、目標耐用年数60年の公共施設であるにもかかわらず、長年にわたり必要な改修、改善、交換が実施されておらず、設備等の補修や更新が必要な状況である。</p> <p>先日、空調の効きがよくないとのことで、展示施設で大型扇風機3台が回っていた。市民が古代遺跡から出土した貴重な埋蔵文化財を小倉で間近で見られる施設は唯一ここしかない。夏休みは、子供たちが土器や石器などの埋蔵文化財を間近で見て、自由研究などを行うチャンスだが、空調が効いていない施設では、その条件が損なわれるのではないか。</p> <p>城野遺跡の二つの石棺には溢れるほどの水銀朱が使われ、中から子供の骨が見つかり、さらには当時貴重な鉄製工具や玉のネックレスなどの副葬品が収められていることから、マスコミで大変注目された吉野ケ里遺跡以上に注目されてもおかしくない。城野遺跡の貴重性が市民に広く知られると、実物石棺を見たいという人も増えるのではないか。</p> <p>あわせて、整理作業員が行う繊細な作業時に扇風機は回せないため、汗だくの中での作業になっていると推察する。</p>	

(続 く)

そして何より、展示している埋蔵文化財は、適切な温度や湿度を保たなければ劣化してしまう。そのため、現在の埋蔵文化財センターでは他都市で出土した貴重な文化財を借用して展示することもできない。

さらに、平和のまちミュージアムの開設に伴い、あいたままの戦時資料スペースをもとの文化財展示に戻すとともに、豊富にある貴重な遺物を市民に公開し、分かりやすく展示することを求める。

私たちは、市民が郷土の歴史に触れ、かつて遺跡で暮らした先人たちの思いを感じられる施設がこの地に必要だと考えている。移転ではなく、現在のセンターの充実こそが必要である。埋蔵文化財センター本来の役割を再認識し、この地で培ってきた市民とのコミュニケーションを土台に、北九州市の歴史と文化を学び未来へ継承できる場合は、現在の埋蔵文化財センターをおいてほかにはないと考え、以下のとおり陳情する。

- 1 老朽化著しい埋蔵文化財センターを早急に設備改善し、訪れる市民やそこで働く職員の安全・安心の確保と共に、展示文化財の保存環境を整えること。
- 2 公共施設であるセンターの機能を最大限発揮させ、これまで根づいてきた市民とのつながりを大切にし、北九州市の歴史と文化を十分に伝えるため、現在の場所で維持、存続させられる体制にすること。
- 3 北九州市の埋蔵文化財は展示品以外にも、多くの市民にアピールできる質と量を持ち合わせている。高い費用を払って発掘し、出土した埋蔵文化財を市民に還元することは、市の責務であり、市が掲げる「文化のかおるまち」への第一歩である。かつての戦時資料コーナーを展示スペースとして有効活用すること。
- 4 埋蔵文化財センターは、小倉にあってこそ北九州市の歴史と文化を情報発信し、センター機能が発揮できる施設である。八幡にはいのちのたび博物館があり、至近距離に二つの施設を競合させる必要はない。センターの目標耐用年数は60年とされ、設備の改善充実が求められる。センター機能を維持し、当たり前の役割分担にリセットすること。